

学生大使 実施報告書

氏名：武田加奈

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・人文社会科学科・3年

派遣先大学：ガジヤマダ大学

派遣期間：2023年8月29日～2023年9月13日

1 日本語教室での活動内容

日本語教室では、ひとりひとりに合わせた柔軟な対応を心がけて授業を行った。上級者には、インプットよりもアウトプットに重きを置いて、しりとりやマジカルバナナなどで遊んだり、インドネシア語の授業を日本語でもらったりした。また、現地の学生と日本の学生を混ぜてグループを作り、いつ・誰が・どこで・何をしたかという4つの役割を割り振って、ひらがなやカタカナだけでなく、漢字も使って自由に書き出してもらい、皆で音読をした。このようなアウトプットをしていくなかでわからないところや間違っているところがあれば、その都度教えてインプットしてもらった。現地の学生のなかに12月に実施される日本語能力試験N3を受験する学生がいて、その学生が試験対策用のテキストを持っていたので、一緒に問題を解いてみたり、ひとつひとつの漢字の持つ意味を教えたりした。ひらがなやカタカナが書ける中級者には、インプットとして、簡単な挨拶や数の数え方を教えて、アウトプットとして、それぞれの自己紹介や昨日したことを日本語で書いて、発音してもらったり、一緒にひらがなパズルをしたりした。ひらがなやカタカナを見たことがないような初級者には、インプットとしてひらがなやカタカナを書き順や発音の仕方とともに教えた。アウトプットとして、好きなアイドルや、アニメのキャラクターの名前を授業で教えたひらがなやカタカナを使って一緒に書いた。

2 日本語教室以外での交流活動

現地の学生はエネルギーでとても優しいので、そのご厚意に甘えさせていただき、日本ではできないようなたくさんを経験させていただいた。ひとりのガジヤマダ大生が通っている日本語教室の先生のお宅にお邪魔して、日本語を学んでいる様子を見させてもらったり、ガジヤマダ大学があるジョグジャカルタについて教えてもらったりした。週末には、ボロブドゥール寺院やクラトン（王宮）など色々な観光名所に連れて行ってもらった。そして派遣期間中、特に印象に残っているのが海でのキャンプである。夜に海に行き、とてもきれいな星空の下でテントをはってキャンプをし、次の日の朝には海に入ったり、砂浜でお昼寝をしたりした。私がキャンプ自体初めてだったこともあり、不便を感じることはあったが、とても貴重な経験になった。また、色々な場所に連れて行ってもらった際、家の前や道路沿いにインドネシアの国旗や旗がたっていたのをよく目にしたため、現地の学生に聞いてみると、1945年8月17日が独立記念日なので、8月中は旗をたててお祝いするのだという。このように、たくさんインドネシアの文化に触れることができ、とても充実した時間を過ごさせてもらったと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

このプログラムの参加目標は2つあった。1つ目は、コミュニケーション能力を高めることで、2つ目は、自分の視野を広げ、価値観をアップデートすることである。1つ目の目標は半分ほど達成できたと思う。このプログラムに参加する前までは、人見知りで初対面の人とあまり話せなかった。しかし、とりあえず会話してみよう、積極的にコミュニケーションをとろうと挑戦するなかで、色々な人とコミュニケーションをとることが楽しいと感じるようになり、派遣期間の後半では、自分から話しかけることが多くなった。また、英語で会話する際に、自分の伝えたいことが伝わらなくても諦めるのではなく、他の簡単な言葉に言い換えたり、ジェスチャーや絵とともに伝えたりするなど、色々な方法でアプローチするように努めた。このプログラムを通して、人見知りを少し克服できたと思う。しかし、完全に克服できたわけではなく、相手の話を100%理解できなかったこともあった。コミュニケーションの話すの部分は向上が見られたが、聴くの部分は向上したとはいえないため、達成度は半分であろう。2つ目の目標はほとんど達成できたと思う。派遣期間の最初のほうでは、インドネシアと日本のギャップに驚き、インドネシアでの生活に悩むことが多々あったが、後半になるにつれて、自分の価値観や日本の常識にとらわれずに考えられるようになり、インドネシアと日本の共通点がたくさんあることに気づくことができた。現地の学生との雑談中に、お互い自分の昔話を話す機会があり、高校時代はどうだったとか、そのときはどんな悩みを抱えていたかなどを知って、インドネシアでも日本でもだいたい皆同じことで悩んでいるのだと気づいた。これは、最初のほうはインドネシアと日本の差異にしか目を向けられていなかったが、後半になるにつれて視野が広がって、インドネシアと日本の共通点にも目を向けることができるようになったということだろう。

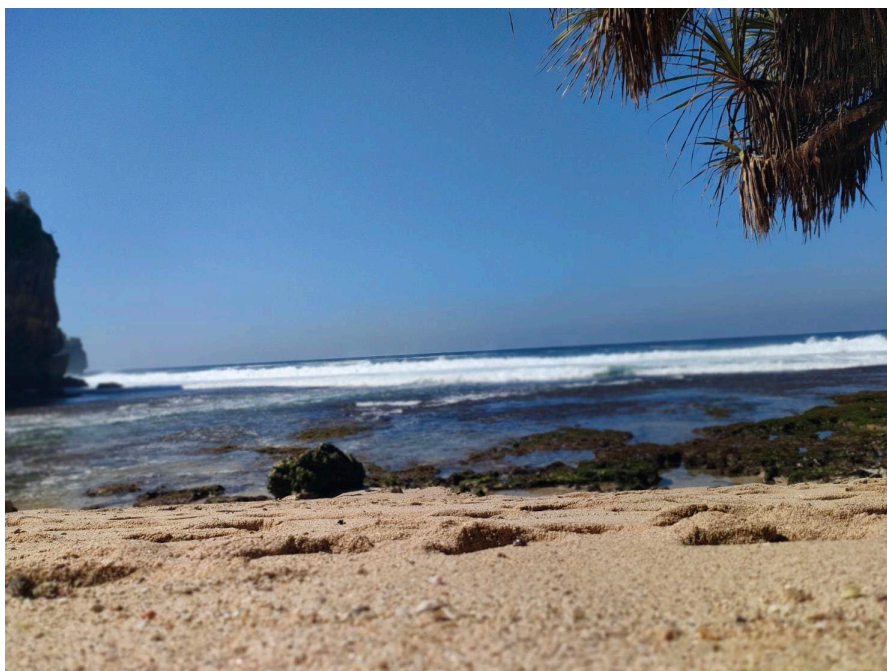
4 プログラムに参加した感想

滞在期間中、インドネシア語での簡単な自己紹介や日常会話について教えてもらったが、自分がインドネシア語を習うという経験を通して、現地の学生に日本語をどのように教えるとわかりやすいのかを考えるよい機会になった。初心者から中級者までは、ひとつの単語やセンテンスを覚えたら、それらを使って自分で簡単なセンテンスを作ったり、実際の会話のなかで使ってみたりすると理解しやすいということがわかった。つまり、インプットしたらこまめにアウトプットすると、単語やセンテンスの意味や使い方の理解が深まり、わかりやすいのではないかと感じた。また、日本ではできない経験をさせていただき、わずか2週間で大きく成長できたため、とても有意義な経験になったと思う。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の派遣期間中、自分が伝えたいことをうまく英語で伝えられなかったこと、相手の言っていることが100%理解できなかったことが何回かあったため、自分の伝えたいことを伝えること、相手の言っていることが理解できるように、英語のスピーキング力・リスニング力を高めたいと思う。また、積極的にコミュニケーションをとろうと挑戦し、少しでも人見知りを克服できたという経験を通して、何事もまずは挑戦してみることに努めたいと思う。

【学生大使 実施報告書】



朝の海



日本語教室